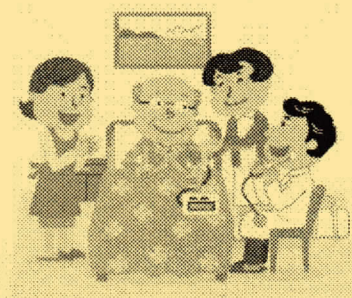


在宅を支える 医療の現場から

日時：11月22日（火）18:30～20:30

場所：鎌倉生涯学習センター
第5集会室

講師：泰川恵吾さん（ドクターゴン）



高齢者ができるだけ住み慣れた地域で、自立した日常生活を送れるよう医療、介護、介護予防、住まい、自立した日常生活の支援が包括的に確保される体制が「地域包括ケアシステム」です。「施設から地域へ」、「医療から介護へ」の流れが作られようとしています。しかし、介護保険制度が目に見えて後退し、介護の担い手不足が深刻です。十分な受け皿がない厳しい状況は、在宅医療も同様です。

長年、在宅診療を展開されているドクターゴンこと、泰川恵吾さんに在宅医療の現実を伺います。

【申込・問合せ】神奈川ネット T&F 0467-42-8636

朝日新聞「ひと」（2016年9月27日）より抜粋

泰川恵吾さん 離島の新しい在宅診療に挑戦する医師



ときには自ら水上バイクを駆って往診する。沖縄・宮古島と周辺5島を対象に、在宅診療を始めて来年で20年。患者との距離を縮めるかりゆし、素足にサンダル姿も板についた。

大都会の真ん中で多忙を極めた東京女子医大の救命救急センターの医長から転じた。がむしゃらに救命するうち、疑問が浮かんだからだ。高齢者は最新の医療技術で生かされても、若返るわけではない。それで本当に幸せか。「こんなことを続けていては日本の医療はもたない」とも思った。生まれ故郷の宮古島に当時の愛称から「ドクターゴン診療所」を開いた。

全国に先駆けて高度な在宅診療システムを作った。外科医として、手術ができる態勢も整えた。そのうえで、「よけいなことはできるだけしない」。おじいやおばあが幸せな死を迎え、家族も苦勞せず済むことが最優先だ。

高齢化率が高い古都鎌倉でも、12年前から在宅診療を始めた。都市部との連携で、若い医師も入りやすくなった。「逃げない」「わかり合う」など勤務心得8項目の最後は「よく遊ぶ」。時間を見つけては宮古の海に潜る。医師としての生活の大切な一部だ。